⑶　当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	120,677千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	―千円
時の経過による調整額	1,889千円
資産除去債務の履行による減少額	―千円
期末残高	122,566千円

9．減損会計

⑴　減損の兆候が認められた固定資産

①減損の兆候が認められた固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額の概要　（単位：千円）

用途	種類	場所	帳簿価額
学生宿泊施設	建物	農学部附属農場　学生宿泊棟 （愛媛県松山市八反地甲498）	2,344

②認められた減損の兆候の概要

農学部の組織再編により、宿泊を伴う実習が必須科目となる対象学生の減少により、稼働率が著しく低下した。

③減損の認識に至らないとした根拠

稼働率は低下しているが、引き続き実習時の宿泊施設として使用するため。

⑵　翌事業年度以降の特定の日以降使用しないと決定した固定資産

①使用しないという決定を行った固定資産の用途、種類、場所等の概要

用途	種類	場所
職員宿舎	建物	北持田宿舎（松山市北持田町）
		喜与町宿舎（松山市喜与町）
		北吉井宿舎２号棟（松山市桑原）
		横河原宿舎１号棟（東温市横河原）
		横河原宿舎２号棟（東温市横河原）

②使用しなくなる日

場所	種類	使用しなくなる日
北持田宿舎	建物	平成29年４月
喜与町宿舎	建物	平成31年４月
北吉井宿舎２号棟	建物	平成31年４月
横河原宿舎１号棟	建物	平成31年４月
横河原宿舎２号棟	建物	平成31年４月

③使用しないという決定を行った経緯及び理由

北持田宿舎、喜与町宿舎、北吉井宿舎および横河原宿舎は、本学の教職員宿舎として保有し、教職員の福利厚生に資する役割を有しているが、耐震基準を満たしていないこと並びに施設及び設備の老朽化等を総合的に勘案し、当該建物について使用しないという決定を行った。

④将来の使用しなくなる日における帳簿価額、回収可能価額及び減損額の見込額

（単位：千円）

場所	種類	帳簿価額	回収可能サービス価額	減損額の見込額
北持田宿舎	建物	0	―	―
喜与町宿舎	建物	0	―	―
北吉井宿舎２号棟	建物	299	―	299
横河原宿舎１号棟	建物	273	―	273
横河原宿舎２号棟	建物	11	―	11

（損益計算書注記）

1．当期総利益のうち、法人移行時における固有の会計処理等に起因するもの

⑴　国からの承継時において、附属病院の建物、構築物等の時価評価等により、借入金見合いの資産の額が、当該借入金に係る債務負担額を下回っていたこと等によるもの

附属病院に関する借入金の元金償還額	761,582千円
当該借入金により取得した資産の減価償却費	127,759千円
当期総利益に与える影響額（差引き）	633,823千円

⑵　国立大学法人等が獲得した附属病院収益と診療機器等に係る減価償却費見合いの資産見返物品受贈額戻入が二重に計上になっていることによるもの

法人化時に国から承継した資産見返物品受贈額のうち、対応する資産の減価償却費が診療経費に分類されるものに関する資産見返物品受贈額戻入額	43千円
	633,866千円

（キャッシュ・フロー計算書注記）

1．資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	8,681,693千円
うち定期預金（控除）	1,900,000千円
資金期末残高	6,781,693千円

2．重要な非資金取引の内容

⑴　現物寄附による固定資産の取得

工具器具備品	125,282千円
その他	17,899千円

⑵　現物寄附による少額備品、消耗品の取得　80,484千円